

## 内科専門医に聞く

循環器内科部長 藤井 望



### ろうさい病院 心臓病の情報箱 その6 「循環器疾患と新型コロナウイルス感染症」

急性心筋梗塞という疾患を皆さんも聞いたことがあるかと思います。心臓に血液・栄養を送っている血管・冠動脈が閉塞し血流が断たれたため、心臓の筋肉が壊死（死んでしまう事）に陥る疾患で、激しい胸痛を伴い、日本人の三大死因の一つに挙げられます。この疾患の予後（疾患の経過・見通し）を改善するためには、発症後直ちに閉塞した冠動脈の血流を再開させる、冠動脈再灌流療法 / 冠動脈内ステント留置術（PCI）を行うことが有効であると証明されています。

さて、話題の新型コロナウイルス（COVID-19）感染症ですが、循環器疾患と全く関係ない訳ではないようです。ウイルスが心筋に感染を起こすと、不整脈や心不全の増悪の原因となりますし、静脈血栓症・肺塞栓症との関連も報告されています。元々病気を持っている人が新型コロナウイルスに感染すると重症化する危険性が高くなると報道されており、心血管疾患を持っている人は、感染すると重症化する危険性が高いと言えます。感染しないよう十分な注意が必要であり、そのため、外出の自粛が求められる事がありますが、その結果、病院等への受診控え・回避現象が全国的・世界的に認められています。事実、日本国内の循環器診療を行っている約半数の施設で、今年4～5月の急性心筋梗塞の患者数が例年より減少したとの集計がされています。これは何を意味するのでしょうか？急性心筋梗塞の発症数はそれほど大きく変動しないものと思われるため、胸痛を自覚しても、病院へ受診しない人が増加している可能性が考えられます。その中には本当の急性心筋梗塞の人が含まれていることが推測され、従って、本来行われるべき治療・PCIを受けていない人が増加してしまっていると考えられています。

新型コロナウイルス感染症もちろん重要ですが、この受診控え現象による弊害、すなわち、通常  
の非感染性疾患の、行われるべき診療が行き届かなくなることも大きな問題  
と言えます。特に、急性心筋梗塞は現代でも約30%の死亡率の疾患であり、  
国内の心筋梗塞による死亡者数（約3.7万人/年）は、新型コロナウイルス  
感染による重症患者・死亡者数とは比較にならない多いものです。十分注意  
した上で、必要に応じた適切な受診をお願いします。



発行：独立行政法人労働者健康安全機構富山ろうさい病院 地域医療連携室

富山ろうさい病院だよりは、当院ホームページにも掲載しています。

【連絡先】0765(22)1280(病院代表)

E-mail: [chiki2@toyamah.johas.go.jp](mailto:chiki2@toyamah.johas.go.jp)